

# 母と子のにわ



第18号

2008 Spring

## 目次:

赤ちゃん連れ去り防止システムがスタートします	1
母乳育児を応援します	2
仕事紹介 臨床心理士	3
外来案内図	4
薬局の改修をしました	4
がんばり屋さん	5
センターからのお知らせ	6



発行

地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立母子保健総合医療センター

## 赤ちゃん連れ去り防止システムがスタートします

当センターでは、妊産婦さんが赤ちゃんを安心して出産、育児をしていただけるよう日々取り組んでいます。

各病棟の非常口には警報装置をとりつけ、各病棟の入り口に電子錠を設置する等の安全策をとっております。今回さらに安全性を高めるために6月より母性棟で赤ちゃん連れ去り防止システムを稼働します。これは、ICタグを赤ちゃんにつけて連れ去りを防止するシステムです。これまでも、鳥取や仙台では入院中の赤ちゃんが連れ去られたという報道を目にしたことがあると思います。幸い当センターでは開院以来27年間、そのような事件は発生していません。今後も、そのようなことが決しておこらないよう、より安全性を高めるために赤ちゃん連れ去り防止システムを設置しました。

どのようなものかを紹介します。

- ・赤ちゃんが出生したら、赤ちゃんにICタグをつけます。
- ・ICタグをつけた赤ちゃんが定められた手順を踏まずに警報チェックポイント（トリガー）を通過した場合、警報器が鳴ります。
- ・トリガーは母性棟、分娩部の出入り口に複数設置されています。
- ・赤ちゃんが手順を踏まずにトリガーを通過した場合、警報器は4色点灯が点滅し、警報音が作動します。
- ・そして、どの出口から誰の赤ちゃんが連れ出されたのかが、各部署の専用端末に表示されます。

この、ICタグは、2.5センチの大きさです。防水性で、赤ちゃんにつけたまま沐浴もできます。電磁波は携帯電話の10万分の1で赤ちゃんにも安全に設計されています。退院まで身につけていただき、赤ちゃんを守ります。今後とも、病院全体で赤ちゃんの安全に意識を高め、赤ちゃんとお母さんが安心して入院生活を送れるよう取り組みを続けます。



(母性西棟 早川典枝・宮川祐三子)



## 母乳育児を応援します



母子医療センターにとって、母と子の健康をサポートすることはもちろん、育児を応援することは重要な使命の一つです。生命の芽生え、人生のはじまり、新たな家庭のはじまりに関わり、家族が素晴らしいスタートをきるお手伝いをさせていただくことは、我々にとって大きな喜びであると同時にとても責任の問われることでもあります。

残念ながら、元気であっても、幸せな生活、将来が約束される訳ではありません。様々なサポートの下、親として社会として、無力な幼子をあらゆるものから守り育てていかねばなりません。そして思いやりのある優しい人になって欲しいですね。

私たちに何ができるでしょうか？どんな環境を提供してあげたいでしょうか？もちろん、お母さんに愛され、お父さんに愛され、家族に見守られ、健やかに成長する事ですよ。

思い浮かべて下さい。皆さんが赤ちゃんのころからやり直すとしたら、なにを希望しますか？どんな光景を思い浮かべますか？おっぱいをのんでいる自分、お母さんの微笑んだ顔、嬉しそうなお父さんの顔……。たくさんおっぱいを飲んで、たくさん抱っこされ、みんなに愛おしまれ、愛情たっぷりに育てて欲しいですね？

自分達がどんな赤ちゃん時代であったかはさておき、私たちの関わっている赤ちゃん達、これから生まれてくる赤ちゃん達には、そんな赤ちゃん時代を過ごさせてあげたいですね。

もちろん、様々な事情で、このような理想的な母と子の時間を過ごせない事もあります。そういう母と子が集まる病院でもあります。どのよ

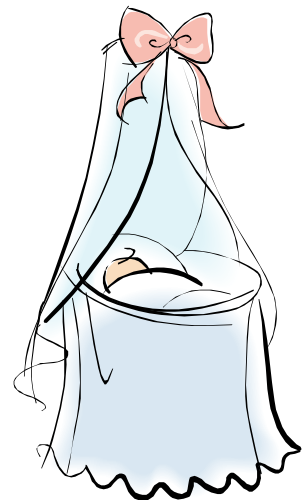
うな場合でも、私たちには、いろいろな努力や工夫や思いやりのできるサポートがあるはずですし、実際いろいろな取り組みが行われています。

薬剤部では、妊娠中に飲用している薬と母乳の関係を出生前に調べ、情報提供したり、助産師外来では、妊娠生活のサポートや出産時の希望をお母さんと計画したり、母性棟では、搾乳を介助しNICUに届けたり……。いずれもスタッフの母乳育児支援への想いから始まった活動です。

このたび、「赤ちゃんにやさしい母乳育児支援推進委員会」を発足する事になりました。

母子医療センターで働く全ての職員は母乳育児支援に関わる事ができます。妊婦、授乳婦、子ども達へのあたたかい眼差し、声かけ、思いやり……。

これまで以上に健康的な妊娠生活を過ごし、お母さんや家族がさらに満足できるようなお産をしていただけるよう、病院中で支援していきたいと思えます。



(新生児科 白石 淳)

## しごとしょうかい りんしょうしんりし 仕事紹介「臨床心理士」

### りんしょうしんりし 臨床心理士とは？

「臨床心理士」は聞いたことがないけれど、「スクール・カウンセラー」なら知ってる！という人も多いかもしれません。私たち臨床心理士は、学校（スクール・カウンセラー）以外にも病院や会社、福祉関係などいろいろな職場にいます。そして、子どもや大人の『こころ』に関する仕事をしています。では、母子医療センターの臨床心理士はどんな仕事をしているのでしょうか？

### ぼしいりょう しごと 母子医療センターでの仕事 その1

人は生まれた後、少しずつ成長し、変化していきます。「どんなことが出来るようになったかな？」「何が得意で、何が得意でないかな？」ということを知るための検査をします。積木やパズル、クイズのような検査です。そして結果をもとに、子どもの力を伸ばすためにはどうすればいいかを、お医者さんやお母さんとお父さんと話し合います。

### その2

子どもにも悩みや心配事はあります。気持ちが落ちこんだり、イライラすることもあります。その理由が自分ではわからない時や、わかっているけど解決できない時だってあります。そんな時に、一緒に話をしたり、絵を描いたり、遊んだりして、子どものこころをわかろうとするのも、私たちの仕事です。心理相談室

には子どもが気持ちを出しやすいように、おもちゃがたくさん置いてあります。

### その3

母子医療センターにはさまざまな病気をもつ子どもが治療に通っています。「手術や入院が怖い」「病気のせいでみんなと同じことができない」「家族に迷惑かけてる」「将来がなんとなく不安」… 誰にも言えずに考えている子どもがたくさんいます。そういう子どもたちの話を聞くことも大事な仕事です。そして、病院スタッフやお母さんお父さん、学校などと協力して、子どもが自分らしく生きられるように支えていきます。

### さいご 最後に…

『こころ』は見えません。だから、本当に子どもの役に立っているのかどうか、わからなくなる時もあります。なかなか難しい仕事です。でも、のびのびとしたその子らしい姿に出会えた時には、本当にうれしく感じます。

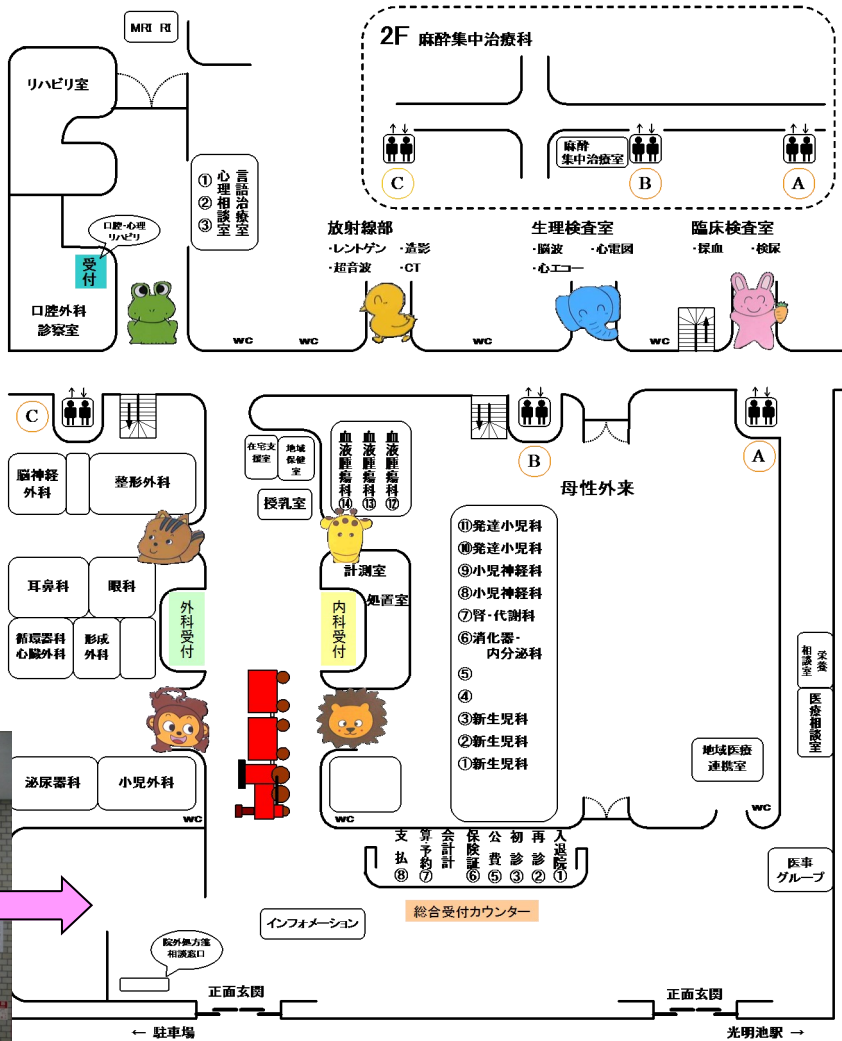
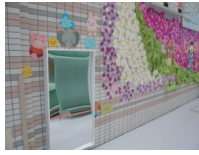


(発達小児科 臨床心理士 村田雅子)

## 外来案内図

### クイズ

さて、右の写真は  
どこかわかるかな？  
なんだか、楽しそ  
うなものがあるね。



## 薬局の改修をしました。

5月の連休明けに、薬局がリニューアルオープンしました。これまでの薬局は、たくさんのお薬や機械で手狭だったので、待ち会いロビーの一部をいただいで拡張工事を行いました。色調は“母と子の愛情”をイメージし、全体的に淡いピンク色でまとめています。

また、オープンカウンターを設置し、薬剤師が患者さんやご家族に対して、これまでより身近にお薬の説明ができるようになりました。カウンター内のスペースも広めに取っているので、経腸栄養剤などを載せた台車を置くことができる為、患者さんにスムーズにお渡しできています。

出来上がったお薬の番号を表示するモニターがまだ取り付けられていないので、皆さんには大変ご迷惑をお掛けしています。もうしばらくご辛抱いただきますようお願いいたします。

お薬についてのご相談がありましたら、いつでもお声をお掛け下さい。丁寧に対応させていただきます。  
(薬局長 室井 政子)

## がんばり屋さん

## 検査科 藤田 佳世

私は、検査室で皆さんの血液や尿の検査、心電図や脳波、エコーなどをする臨床検査技師という仕事をしています。この4月から母子センターで働きだしたのでまだ分からないことばかりですが、まわりの人達に助けられながら、毎日がんばっています。私がなぜ、母子センターで働こうと思ったかという、私も実は、幼い頃皆さんと同じように母子センターでお世話になっていたからです。私は小さい頃から体が弱くてよく病院にかよっていました。今も薬を飲みながら生活しています。私は小さい時、病院が嫌いでした。なぜなら痛い注射や検査をしなければならなかったからです。しかし、ある時、検査をしなければ体がよくなるということに気がきました。検査をすることで今、自分の体がどんな状態なのか？どこが悪いのか？を知ることができ、どんな薬を飲んだらいいか？どんな治療・手術をしたらいいか？が分かるのです。それに気付いてから私は、つらい検査もがんばろうと思うようになりました。

つらかったのは検査だけじゃありません。体が悪い時は、幼稚園や学校に行くことが出来ませんでした。みんなは幼稚園や学校で遊んだり、勉強したりしているのにどうして私は病院で1人で寝ていないといけないの？と寂しくなることもありました。しかし、私には友達がいきました。病院にお見舞いに来てくれたり、学校での出来事を教えてくれたり、勉強を教えてくれる友達がいきました。友達とおしゃべりしている間は、そんな寂しい気持ちはどこかへいってしまいました。だから私は、友達をたくさんつくりました。友達とおしゃべりしたり、遊んだりしていると病気のことも忘れてしまいます。つらいときは、友達がいてくれるだ

けで本当に元気になれました。逆に友達がつらい時は私が楽しい話をしたりしてお互い元気付けました。大きくなって働きだした今でも友達には元気や勇気をもらいます。だから、皆さんもそんな友達をたくさんつくってください。

今、私が元気で働くことが出来ているのは友達だけでなく、家族や幼稚園・学校の先生、病院のお医者さんや看護師さん、その他たくさんの人達の協力があったからです。私は毎日、そのたくさんの人達に感謝しながら、生活しています。そして私のことを元気付けてくれた病院で働く人達のように今度は私が病気でつらい思いをしている人達の少しでも役に立ちたい！と思って病院で働こうと決めたのです。小さい時はまさか私がお世話になった母子センターで働くことになるとは思ってもいませんでした。検査技師になった今は、患者の立場だった小さい時の経験や感じたことを生かして働くことが出来ればいいなと思っています。今は、まだ働き始めたばかりで分からないことがたくさんあり、先輩方に助けていただければいいのですが、早く一人前になれるようにがんばっていこうと思います。そして、早く皆さんのお役に立てるようにこれからも今まで以上に努力していきたいです。

皆さんも病気や私に負けないくらいがんばってください。そして皆さんが早く元気になっていろいろな場面で活躍出来ることを願っています。



### 募集中

がんばり屋さんのコーナーでは、登場してくださる方を募集しています。母子医療センターで治療を受け、現在各方面で頑張っている方をご紹介します。自薦・他薦は問いません。

詳しいことは、母子医療センター企画調査室までお問い合わせください。

TEL : 0725-56-1220

(内線3241)

E-mail : kikakusi

@mch.pref.osaka.jp





地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立  
母子保健総合医療センター



〒594-1101  
大阪府和泉市室堂町840  
電話 0725-56-1220(代)  
Fax 0725-56-5682

ホームページもご覧ください。  
<http://www.mch.pref.osaka.jp>

申込不要です。直接  
会場にお越し下さい。

## センターからのお知らせ

母子医療センターでは、府民公開講座を開催します。

大阪府立母子保健総合医療センター府民公開講座

**母と子の明日に向けて**  
第5回室堂セミナー

母子医療センターでは下記のとおり府民公開講座を開催します。

体質や個性を理解するために  
**「遺伝のおはなし」**

**2008. 7. 5 (土) 13:30~15:30**

大阪府立母子保健総合医療センター研究所大会議室  
泉北高速鉄道「光明池」下車徒歩5分

参加費無料

**プログラム**

1. 遺伝と病気	地域保健室長	岡本 伸彦
2. 遺伝子治療の現状と展望	研究所免疫部長	柳原 格
3. 遺伝カウンセリングについて	近畿大学総合理工学部教授	田村 和朗
		■司会進行 研究所長 和田 芳直

**申込不要**  
本公開講座は参加申込み及び参加費不要です。  
ただし、会場の都合により参加者多数の場合は入場をお断りすることがあります。ご了承ください。  
定員 150名  
ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

**問合せ先**  
〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840  
大阪府立母子保健総合医療センター  
企画調査室  
TEL: 0725-56-1220  
FAX: 0725-56-5682  
E-mail: kikakusi@mch.pref.osaka.jp




## リニアック棟の建設工事を始めました。

リニアックは、放射線治療に用いる装置ですが、すでに更新期を迎えています。当センターでは、今年度中に最新のものに置き換える予定ですが、現在使っている装置を停止させないで更新を行うため、新型装置を設置するための建物を小児棟横に別に作ることにしました。その工事が5月から本格的に始まっています。

工事期間は、来年1月末までの予定で、その間、工事の騒音と振動をできるだけ小さくする努力をしますが、それでもご迷惑をおかけすることがあるかと思えます。申し訳ありませんが、ご協力の程よろしくお願ひします。

先に始めています耐震工事も含め、

工事に関するご質問がございましたら、最寄りのナースステーションを通じて、あるいは直接、事務局施設保全グループまでお寄せください。

(事務局施設保全グループ)

